

議会に風穴を!

議会運営委員会や広報
広聴委員会で改善を求め
てきたことが実現しました。

●陳情者の陳述を公開の場で

陳述は、陳情者が陳情の趣旨を説明し、議員からの質問に答える場です。これまで別室にて非公開で行われていましたが、委員会室にて公開で行われるようになりました。ただし、休憩中の扱いで議事録が残りません。さらなる改善が必要です。

●『ギカイの時間』に賛否表

議会だよりに主な議案について会派毎の賛否が掲載されるようになりました（HPでは、すべての議案について議員毎に掲載）。

●一人会派の扱い

一人会派は、議会運営委員会と会派代表者会議には、オブザーバー参加しか許されていませんでした。

しかし、あきる野市議会基本条例では、一人会派を認めていることから、改善を求めた結果、議会運営委員の資格が認められ、委員になることができました*。なお、会派代表者会議への参加は、今もオブザーバーとしてしか認められていません。

(*委員会の定員は7名。会派の議員数に応じて希望を取るため、実際には一人会派が委員になるのは難しいのですが、今期は、他会派の協力で委員になることができました。)

国政に声を!

地方議会から国政に意見を出すことも地方議員の重要な仕事

です。下記の3つの意見書案を会派代表者会議に提案し、他会派との調整を経て、意見書提出に漕ぎ着けることができました。

- 選択的夫婦別姓制度の導入を求める意見書
- 国にPCR検査体制の拡充と整備を求める意見書
- 個人情報保護法の改正について慎重な検討を求める意見書

賛否の割れた主な審議 (2期目の議会を振り返って)

審議時期	(○:賛成、×:反対、△:会派内で意見が割れたケース)	くさしぎ (辻1人)	自民党 志清会 (議長を除く8人)	公明党 (3人)	未来 (4人)	共産党 (3人)	結果
2018.3	原発事故避難者への住宅支援を求める意見書 (提案者:辻)	○	×	×	△	○	否決
2018.6	印鑑条例の一部改正(マイナンバーカードによる証明書のコンビニ交付に関連する条例改正)	×	○	○	○	×	可決
2018.12	「日米地位協定」の改定を求める陳情	○	×	×	△	○	不採択
2019.3	アスベスト被害者補償基金制度を求める陳情	○	×	×	○	○	不採択
2019.9	引田駅北口土地区画整理事業を凍結し見直しを求める陳情	○	×	×	○	○	不採択
2019.12	御堂中西側市有地および、秋川高校跡地への福祉施設の誘致の再考を求める陳情	○	○	○	×	○	採択
2020.3	2020年度一般会計の修正案(るのバス購入費を削除)	×	○	○	×	×	可決
2020.9	憲法論議の推進と国民的議論の喚起を求める陳情	×	○	○	△	×	採択
2020.12	市長に対する問責決議(可否同数で議長裁決)	×	○	退席	×	×	可決
2020.12	加齢性難聴の補聴器購入補助を求める陳情	○	×	×	×	○	不採択
2020.12	引田駅北口土地区画整理事業における工事契約	×	○	○	○	○	可決



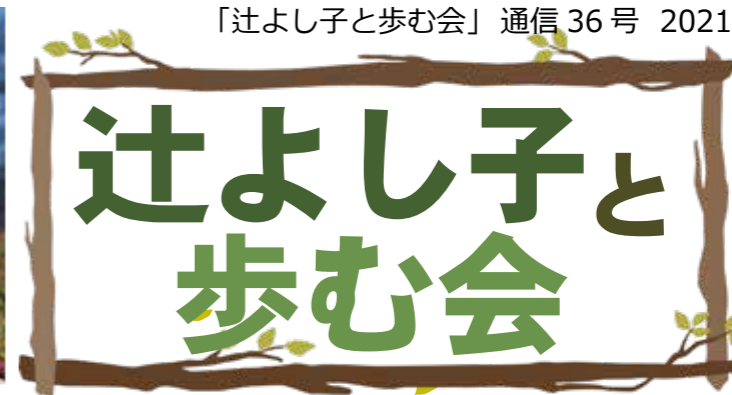
1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぶ会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で初当選。現在、2期目。夫、次男、ネコ1匹と草花に暮らす。

「辻よし子と歩む会」会員募集中!
年会費:1,000円(カンパ歓迎!)
郵便振替
加入者名 辻よし子と歩む会
口座番号
00140-9-430053
ゆうちょ銀行
(店番)〇一九(ゼロイチキユウ)
店(019)
当座 0430053

(討議資料)



HP「辻よし子と歩む会」で検索
FB、ツイッターもやっています!



「辻よし子と歩む会」
☎ 190-0154
あきる野市高尾182-1 佐橋方
電話 & FAX : 042-596-4569
e-mail : kusasigi@nifty.com
共同代表 : 柏倉倫子・青木真知子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず

**だれもが心穏やかに暮らせる社会を
市議になって5年3ヶ月**

福島原発事故の衝撃から、政治を人任せにしてはいけなさと猛反省し、身近な政治のある市政に関わることを決意しました。同じ思いを持つ市民が集まり市議選にチャレンジする準備を始めたのが2011年の晩秋でした。政党や政治組織とは無縁であり、支持基盤としての地縁・血縁もありません。一市民として市議会に飛び込み、無我夢中で過ぎた5年3ヶ月。

市議会では、日々の暮らしに直接関わること、たとえば、社会保険の税率、公共サービスの料金、開発事業のあり方、条例改正などについて、議員の賛否によって最終的な判断が下されます。市民生活に影響を与える決定権の行使に、毎回責任の重さを感じます。それだけに、低下する一方の選挙の投票率がたいへん気になります。最近の市議選の投票率は約5割。若い世代では2、3割しかありません。

また、それぞれの議案が議会においてどのように決められているか、市民のみなさんに十分伝えられていない申し訳なさと、なかなか関心を持ってもらえない歯がゆさを感じます。特に、賛否の分かれる重要な議案が、まともな議論もないまま数の力で決まってしまう時、「こんな議会でのいのでしょ

うか」と、議場の内外に向かって問いたくなりません。民主主義が重んじていることは、論理的にしっかりと議論し、たとえ少数派であってもより合理的な判断が尊重されるということです。拙速な多数決では正しい判断ができないことを、歴史が証明しています。しかし、今の議会では、議論をしようとしても、「どうせ平行線だから無駄でしょ」「今のままがいい。それが理由です」と、議論が打ち切れ、当たり前のように数の力で押し切られることが少なくありません。

コロナ禍において、民主主義の劣化による社会の歪みが拡大し、格差と貧困がより顕在化しています。本来、救済されるべき弱者が切り捨てられていく社会に心が痛みます。

もっとまともな世の中へ変えていけるのは、どこかの誰かではなく、私たちひとりひとりでしか

ありません。それは、決して大仰なことではなく、社会に対する疑問や違和感をそのままにせず、それを手がかりに社会を知ることから始まるのだと思います。そこに携わるのが議員の役割でもあります。

誰もが心穏やかに暮らせる温かみのある社会を築くために、これからもみなさんと一緒に考え、行動していきたいと思っています。(辻よし子)



2期目の 議会活動で 得た成果

4年の任期も残り半年

4頁の賛否表を見ると分かる通り、私の可否の判断とは裏腹の結果になることが多いのが現実です。しかし、2期目に入り、コツコツと客観的なデータを集め、筋道を通して必要性を訴えたことで行政や議会に理解も広がり、一人会派の提案でも、実現できたことがいろいろあります。そのいくつかを紹介します。

自治体が作成している生活保護のしおりは、申請者の義務を先に掲げ、弱者に厳しい書き方をしているものが目立ちます。

困った人に寄り添う生保のしおりに改訂

あきる野市のしおりもその一つでした。そこで、当事者の声を聞きながら全面的にしおりを改訂した小田原市の取り組みを紹介して改善を求めた結果、困っている人に寄り添う姿勢が感じられるしおりになりました。

コロナ禍で生活困窮者が増え、ようやく厚労省も「生活保護の申請は国民の権利です。生活保護を必要とする可能性はどなたにもあるものですので、ためらわずにご相談ください」という文章をHPに掲載しました。

今後、市内で申請者が増えた際に、安心して渡せるしおりになって良かったです。

教員補助員が活躍できる体制に

各学校に配置している教員補助員は、100%市の予算によるオリジナル事業です。補助員に活躍してもらうためには、ケース会議への参加、担任教員との定期的な情報交換、研修等を、勤務時間の中できちんと保障すべきですが、これまでは出来ていませんでした。ようやくその必要性が認められ、体制づくりが進められています。

弱者にやさしい市政へ

高齢者向けの市営住宅である雨間ハイツでは、夫婦の一方が亡くなると、残された一方は原則、退去しなければならないという、あまりにも住民に冷たい制度になっていたため、改善を求めました。市は、条例が現状に合わなくなっていることを認め、改正を検討すると共に、改正までの間も適切に対応することを明言しました。

市営住宅の無情な制度が改善

市の情報をオープンに

●あきる野市の情報公開は、多摩地域の他市に比べて、後れています。

そこで、市民に限らず誰もが情報公開の請求ができるよう、また、できる限り黒塗り（非開示）が減るよう、情報公開条例の改正を提案しました。少々

時間はかかりましたが、条例改正が実現しました。

●市の課題や取り組みの状況を知る上で、審議会や委員会の議事録はとても役立ちます。しかし、あきる野市は他市に比べて公開している議事録の数がとても少なかったため、改善を求めてきました。その結果、ここ数年で次々と議事録が公開されるようになりました。

より開かれた情報公開へ大きく前進

納税者の目線で、厳しくチェック

市民の税金が正しく使われているかどうか、細かく丁寧にチェックしていく中で、会計上の誤りを発見し、訂正や改善につなげました。

委託料の払い過ぎを指摘

●2018年9月の決算委員会で引田駅北口土地区画整理事業において、委託業者に誤って86万円多く支払っていたことを指摘。その後、委託業者から86万円が還付され、補正予算に計上されました。

財務書類の誤りを指摘

●2019年9月の決算委員会で配布された財務書類に不可解な点があることを指摘。その結果、前年度資料で、17億円を1億7000万円と誤って計上していたことが明らかになりました。修正されると共に、原因と改善策が示されました。

下水道計画の見直しに踏み出す

財政健全化のための改革を

市の借金の3分の1以上は下水道事業に因るものです。汚水処理整備のインフラは必要ですが、人口密度の低い地域や地形的に下水道管を通しにくい場所は、面整備の下水道よりも個別に設置できる浄化槽が適しています。今後の人口減少と財政状況を見据えた抜本的な見直しが必要ではないかと繰り返し求めてきました。その結果、浄化槽を取り入れた汚水処理整備計画の策定と、そのための組織改正が検討されることになりました。



●2020年2月の斎場組合議会において、新年度予算案に金額の表記ミスが複数箇所あることを指摘。その結果、予算案は否決されました。後日開かれた臨時議会に訂正した予算案が再提出され、可決されました。

予算書の誤りを指摘

資金計画の誤りを指摘

●2020年9月議会に提出された引田駅北口土地区画整理事業の資金計画に、複数箇所、不可解な点があることを指摘。答弁が得られなかったため、資金計画に関連した補正予算の審議中断を求めました。審議は3週間以上延期され、訂正した資金計画に基づき、補正予算は可決されました（資金計画に根本的な問題があるため辻は反対）。

コロナ対策費の有効な活用を

あきる野市のコロナ対策において要望や提案をし、実現した事業のいくつかを紹介します。

- 社会福祉に関わる職員等を対象にした市独自のPCR検査の実施
- 高齢者福祉施設で感染が発生した際の応援体制づくり
- 手洗いが奨励される中、他の学校に比べて手洗い場が少ない秋多中学校への手洗い場の増設。
- 子ども家庭支援センターにメールで悩み事を相談できる体制づくり
- 一斉休校で影響を受けた就学援助受給世帯への給付金支援
- 在住外国人がアクセスしやすいHPへの改善